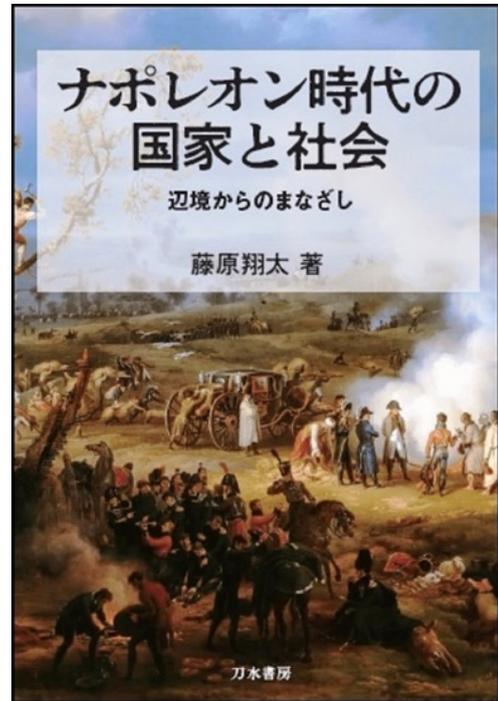


ナポレオン時代の国家と社会—辺境からのまなざし—

藤原翔太 著（刀水書房、2021年）



（著者紹介）

藤原翔太（ふじはらしょうた）

1986年生まれ、島根県出身

2016年トゥールーズ・ジャン・ジョレス大学博士課程修了（フランス政府給費留学）、
博士（歴史学）

現在 福岡女子大学国際文理学部国際教養学科准教授

主著（共著）『フランスの歴史を知るための50章』（明石書店、2020年）、（共著）『東アジアから見たフランス革命』（風間書房、2021年）

（概要）

ナポレオン体制は中央集権的な行政システムを確立することでその「独裁」を可能にしたと考えられてきた。しかし、県次元以下の行政システムの実質的な機能に関する研究はなされておらず、ナポレオン時代に構築された統治体制の全貌は明らかになっていない。そこで本書では、「国境＝辺境」たるピレネー地方を舞台に、国家・名望家・民衆の三者が織りなす諸関係に注目し、ナポレオン時代に形成された地方統治体制の実態とその歴史的意義を明らかにする。